

「英国留学レポート」

千代田化工建設株式会社 T. U

[はじめに]

2011年8月より約1年間、社費留学制度を利用して英国シェフィールド大学の化学・生物工学部の修士課程 (MSc in Process Safety and Loss Prevention, 以下 PSLP) に留学してきました。本稿では、英国の生活や理系大学院について、女性の活躍やワーク・ライフ・バランスの観点からレポートいたします。

[留学に至るまで]

約1年の留学準備期間を経て、無理を承知で応募した社費留学制度には上司の大きなサポートのもとに承認が下りました。当社には以前より社費留学の制度がありましたが、技術系かつ入社10年以内の(比較的)若手であるケースは珍しく、かつ女性の派遣ははじめてとの事で、この機会を与えられたことは本当に幸運でした。

出発前には、技術本部長から直々に激励を受けました。女性として将来の結婚や出産を経て勤務を続けるには困難もあるかもしれないが、帰国後も長く働いて欲しいという期待の言葉をいただいたの出発となりました。留学中も会社のサポートが有ったことは、自分にとって大きな安心となりました。

[多様なバックグラウンドの学生たち]



学生寮兼講義棟

留学先は約23,000人の学生のうち6,000人以上をEU外の留学生在が占める、国際的な総合大学でした。キャリアを中断して、または継続しながら修士・博士課程に入学した同世代の女性たちにも多く出会いました。例えば、留學生として妊娠・出産を経て子育てをしながら博士号を取得し、英国で大学教員になった方がいました。また、女性の留学に男性パートナーが付き添って来ている夫婦にも何組か出会いました。筆者自身、これまで男女の別をあまり気にせずにご過ごしてきた方だと思っておりましたが、女性の留学やキャリアチェンジに男性が帯同するこのようなケースは日本ではまだ稀なのでは、と新鮮な驚きを得ました。大学には、留學生に帯同してきた家族向けに英語を教える無料のクラスや託児所・病院等が併設されており、様々なケースに対応する制度が整っています。

筆者が入学したPSLP課程では、学生の半数以上が社会人経験者であり、4~5割が留学生、そして3~4割が女性といった構成でした（※筆者の印象であり、正確な数字はわかりません）。筆者が参加した1年で課程を終えるフルタイムのコースの他に、英国近隣の社会人学生向けには2~3年かけて受講できるパートタイム学生の制度があります。授業は集中講義のスタイルを取っているため、通学回数を最小限に抑えて自宅で課題に取り組みながら卒業することができます。近隣国・英国各地から通う社会人学生は、筆者と同じように会社の補助制度を利用して来ている方のほかに、休暇を利用して通学しキャリアアップを目指している方もいました。英国では共働きが標準だからでしょうか、こうした機会の利用には男女に差があるようには見えません。男女ともに家族があり、仕事を続けながらもなんとか大学院の課題を終えられるようなライフスタイルがあるようでした。中にはカナダ（女性）やエジプト（男性）から隔月でシェフィールドに通ってくるつわものも居ました。

[英国の働き方]

学生生活に加え、現地の会社でのインターンシップを通じて、英国のワークスタイルにも触れることができました。

業種や業務内容にもよるとは思いますが、筆者が勤務した技術系コンサルティング会社では在宅勤務が認められており、求められる成果を出せば何時どこで仕事をしていても良い、という考え方でした。例えば子どもがいる社員はマネジャーのような責任者の立場であっても、在宅勤務を活用するほかに子供の送り迎えのために離席するなど、個人の事情が尊重されサポートしあう仕組みがありました。残業も日本での筆者の経験に比べて少なく、夏の長い日照時間を利用して定時後に外で同僚とサッカーをするなど、アフター5を楽しむ雰囲気が社内にはありました。こうしてフレキシブルな平日の夜や週末を趣味に使う代わりに、大学の社会人学生達はステップアップのための勉強に充てていたということです。

[英国滞在を通じて感じたこと]

英国滞在中、仕事や家族がありながらも次の目標を持ち、キャリアアップを目指すパワフルな女性たちとたくさん出会いました。そして、キャリアアップのような目標を支えて実現可能にする社会の仕組みが、女性のみならず多様な人たちの周りに構築されています。

まず、PSLP課程のように仕事を続けながらも通える受講システムを導入している大学が数多くあります。授業では実務家教員（一般企業で働く専門家など）が教鞭をとり、社会人が必要とする実践的なスキルを身に付けることができます。また、大学院以外でも業界の勉強会などが頻繁に開かれており、社会人になってからのスキルアップの機会が非常に多いと言えます。

次に、大学院入学は社会人経験をしてからのの方が一般的であり、社会人学生となった本人を家族もサポートしています。筆者の友人の中には、まず男性パートナーが修士を取ったら、次の2年は女性パートナーの修士号取得を男性がサポートするといった例がありました。

最後に、前述のとおり勤務先の企業でも社員のスキルアップを奨励する風潮があるようでした。大学院での講義出席を欠勤扱いとしない、毎年1名社員を学生として送り込んで学費もサポートするなどの仕組みが整備されているケースを耳にしました。

[最後に]

英国では特に「男女共同参画」を取り上げて取り組むといった動きは感じませんでしたが、日常的に性別に関係なく、様々な国の出身者が同じ職場ではたらく文化がつくられている印象を受けました。スキルアップを目指す社会人には日本よりもフレキシブルにその時間が調整可能である、男性と同じようにキャリアを積み重ねている女性が多い、そのような点で日本はまだ機会が少ない方であり、向上できる点がたくさんあると感じました。

最後になりますが、留学から戻った現在、筆者の所属する部署は、社員13人のうち5名が女性、と技術系の職場にしては女性比率が高いところです。今後も女性を含めた多様なバックグラウンドの社員が、長く活躍できるような職場づくりに皆で取り組んで行きたいものです。